

自治医大キャリア支援のあゆみ

- 2006年 (平成18) 9月/ 卒後指導委員会・女性医師支援WG発足
- 2007年 (平成19) 6月/ 文科省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人GP)」 「自治医科大学女性医師支援プログラム」採択
9月/ 就業育児の両立のための週20時間短時間勤務制度
10月/ 自治医科大学附属病院・女性医師支援センター開設
センター長：桃井 眞里子 教授
- 2008年 (平成20) 9月/ 保育ルームあいりす開設(一時託児、ルーム外保育、送迎、サポート会員制)
- 2010年 (平成22) 4月/ あいりす病児保育スタート
- 2011年 (平成23) 4月/ あいりす夜間保育スタート
センター長：湯村 和子 教授
- 2012年 (平成24) 4月/ 自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター開設
センター長：草間 幹夫 教授
- 2014年 (平成26) 4月/ センター長：簗田 清次 教授
- 2015年 (平成27) 1月/ 就業継続支援アンケート実施
4月/ センター長：佐田 尚宏 教授
- 2016年 (平成28) 4月/ センター長：小宮根 真弓 准教授
- 2018年 (平成30) 2月/ 「保育施設見直し」に向けたアンケート調査実施
8月/ 「研究者の就業制度拡充に向けた出産育児支援ニーズ」に関するアンケート調査実施
- 2019年 (平成31) 4月/ 裁量労働制(病院助教以上)、変形労働時間制(レジデント研修医)、専門業務型裁量労働制(研究者) 導入
6月/ 就業育児の両立のための週30時間短時間勤務(自治医大特例、小学3年生まで)制度
- 2020年 (令和2) 1月/ 働きやすい環境作りについて(Good Practice)調査実施
12月/ 全国ダイバーシティネットワーク参画
- 2022年 (令和4) 4月/ 医師・研究者キャリア支援センター開設10周年
7月/ 内閣府ベビーシッター派遣事業割引券導入
8月/ 職員のキャリア支援に関するニーズ調査実施

4つの柱を軸とした自治医大キャリア支援



働くパパ・ママを支援 (全職員対象)
・保育ルーム「あいりす」の運営
・育児休業・時短勤務の促進

仕事と家庭の両立や、育児、介護、復職、キャリアデザイン等について支援
・働き方を考えるセミナー
・Jichi Joy café

男女共同参画のもと若手医師・研究者等のキャリアアップを支援
・次世代医師・研究者交流会
・All Jichi Project

自治医大現役生の今後の働き方や卒業生医師のキャリアアップを支援
・自治医大地域医療推進課・栃木県医師会女性部会と連携支援
・卒後ワークライフバランスについて考える会



PROGRAM

- 開会挨拶** 13:00-13:05 川合 謙介 (自治医科大学 附属病院長)
- 基調講演** 13:05-13:40 **植物の謎に魅せられて-私の歩んできた道-**
中西 友子 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
- 講演 1** 13:40-13:55 **持続可能で多様な社会におけるキャリア形成**
永井 良三 (自治医科大学 学長)
- 休憩** 13:55-14:10
- 講演 2** 14:10-14:30 **医師・研究者キャリア支援センターの歩みと今後の課題**
小宮根 真弓 (医師・研究者キャリア支援センター長)
- 講演 3** 14:30-14:55 **医師・研究者のキャリアを支える病児保育**
園田 正樹 (コネクテッド・インダストリーズ株式会社 代表、東京大学医学部 産婦人科学)
- 閉会挨拶** 14:55-15:00 大槻 マミ太郎 (自治医科大学 副学長)

司会：石川 由紀子 (医師・研究者キャリア支援センター副センター長)

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
Center for Physician and Researcher Career Support



自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

基調講演

植物の謎に魅せられて -私の歩んできた道-

中西 友子

東京大学大学院農学生命科学研究科



現在、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授。1978年東京大学理学系研究科化学専門課程博士課程修了。理学博士。日本ゼオン(株)などを経て1987年東京大学農学部助手。同助教授を経て2001年同教授。東京大学総長補佐、東京大学環境安全本部本部長、日本学術会議会員、などを経て2016年東京大学名誉教授。その後星薬科大学学長を経て星薬科大学名誉教授ならびに中部大学学事顧問・理事。

学外委員では、文部科学省科学技術・学術審議会委員、日本ユネスコ国内委員会委員、文化審議会委員、内閣府原子力委員会委員、日本工学会アカデミー副会長、日本放射化学会会長などを兼任。

受賞関連では、猿橋賞、ヘビー賞、日本放射化学会賞、原子力学会貢献賞、フランス国家功労勲章(シュブリエ)、フランス教育功労章(シュブリエ)を受賞。チャルマーズ工科大学名誉博士、スウェーデン王立工学会アカデミー会員、スウェーデンイオテボリ王立科学アカデミー会員。近年の著書に「土壌汚染」(2013)、「フクシマ土壌汚染の10年」NHKブックス(2021)、「Novel Plant Imaging and Analysis」Springer(2021)がある。

医師・研究者キャリアセンター設立10周年記念シンポジウムでお話をする機会をいただき誠に有難うございました。私自身のキャリアーも含め、「植物の謎に魅せられて」というタイトルでお話をさせていただこうと思っております。

元々、放射化学を専攻していた者がどうして植物をターゲットとして研究を進めることになったのか。私が博士号を取得したのは、まだ男女雇用機会均等法が施行される8年前のことでした。そのため、まず職探しが大変な仕事でした。最初は財団法人に就職し、次に企業の研究所に行きました。そこでは思いもかけなかったのですが、米国留学の機会を得ました。そして次に大学に職を得て初めて自分の研究分野が定まります。そして一貫として放射線やRI(Radioisotope)を研究のツールとして使ってきました。まず、これらの経緯をお話しし、次に放射線やRIを利用すると、他では得られない植物の謎に出会うことになることを紹介します。それらがどんな謎なのか、今回はその中で、主に水との関わりについてご紹介します。まず、植物の根は土の中で水溶液と殆ど接していないのです。ということは水蒸気を吸収していることとなります。では、金属も蒸気を吸収しているのでしょうか。また植物体内で水循環があることもご紹介します。今は、RIを使ったリアルタイムイメージング、それも植物が固定する二酸化炭素、つまりガスのイメージングをしています。

最後に、私は縁があって星薬科大学の学長を務めましたので、薬学の状況についても少し触れることができると幸いです。

講演 1

持続可能で多様な社会における キャリア形成

永井 良三

自治医科大学 学長



昭和49年 9月 東京大学医学部医学科卒業
昭和58年 7月 - 62年12月 University of Vermont, Visiting Assistant Professor
昭和63年 7月 - 平成 3年 4月 東京大学医学部附属病院検査部講師
平成 5年 3月 - 7年 3月 東京大学医学部第三内科助教授
平成 7年 4月 - 11年10月 群馬大学医学部第二内科教授
平成11年 5月 - 24年 3月 東京大学医学系研究科内科学専攻循環器内科教授
平成15年 4月 - 19年 3月 東京大学医学部附属病院院長
平成24年 4月 自治医科大学学長
令和元年 5月 宮内庁皇室医務主管

受賞
昭和57年 3月 日本心臓財団 佐藤賞
平成10年11月 ヘルツ賞
平成12年10月 持田記念学術賞
平成14年 7月 日本動脈硬化学会賞
平成18年11月 日本医師会医学賞
平成21年 5月 紫綬褒章
平成22年 3月 日本心血管内分代謝学会 高峰譲吉賞
平成24年 8月 European Society of Cardiology (ESC) Gold Medal
平成27年10月 岡本国際賞
平成29年 武見記念賞
令和元年 デジタルコンテンツ協会 Innovative Technologies 2019

不確実な世界にあってどのような道を歩くかは、いつの時代でも難しい。どの道がよりよい選択となるか、誰もわからない。人生は複雑であり、何がよい選択かを考えても浅知恵となることが多い。したがって望ましいキャリア形成のあり方を一概に語ることはできない。それぞれが育った時代と個々の環境をもとにして、自分の特性に気づいて人生を生きること、岐路に立った時に一生懸命考えることが重要であり、その経験がキャリア形成につながる。考える機会を提供することは、キャリア支援センターの重要な役割であろう。

個性や感性には、幼少期から10才代の経験が大きく影響する。演者の育った時代は、すでに戦後の混乱から復興しつつあったが、1ドル360円に象徴される経済的に貧しい時代だった。街には進駐軍のGI、国際的には米ソのイデオロギー対立、国内では政治闘争、テロ、大規模な事故を日常的に経験していた。その中で時代や社会、さらに組織の変動に振り回されることのない生き方をすることの大切さを考えるようになった。同時に、懸命に駆け抜けた先人や仲間の生き方、そのなかで出会ったいくつかの本が、自分の歩みに影響を与えてきた。講演では、キャリア形成の基盤となる考え方を話します。

講演 2

医師・研究者キャリア支援センターの 歩みと今後の課題

小宮根 真弓

医師・研究者キャリア支援センター長



2007年に、桃井眞里子教授をセンター長として全国に先駆けて女性医師支援センターが設置され、育児をしながら就業継続できるように、週20時間短時間勤務制度が制定されました。翌年には保育ルームあいらずが開設され、一時託児、ルーム外保育、送迎サービスが始まりました。2010年からは、あいらずにて病児保育、2011年には夜間保育が開始されました。2012年に、草間幹夫教授のもと、現在の自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センターと名称が変更され、学長直属の組織として再出発いたしました。医師・研究者キャリア支援センターとしては10周年ですが、女性医師支援センターから起算すれば15周年ということになります。支援の対象は女性医師から、男女問わず、医師のみでなくすべての従業員となりましたが、実質的な支援の中心は、未だ育児と就業を両立させて就労している女性医師というのが実情です。現在、研修医の約30%が女性医師であり、今後女性医師の割合は増加していくことが予想され、育児中の女性医師の就労条件は今後変化していく可能性が高いと思われます。女性医師・研究者に対する評価は、必ずしも男性医師・研究者に対する評価と対等なものではなく、それが職階の男女差に反映されていると思われます。研究者への支援については現時点で特定の規程もなく、未だ手探りの状態です。ダイバーシティやSDGsという言葉が先行して中身がまだ十分に整っていない状況です。今後の10年は、個性あふれる就労者がそれぞれの力を十分に発揮でき、個人としても大学全体としても、継続的に成長できるような環境を整備していくことが、当センターの役割であり目標であると考えています。



1988年、東京大学医学部医学科卒業。ニューヨーク大学メディカルセンター皮膚科研究員、東京大学医学部付属病院皮膚科などを経て2007年より自治医科大学に勤務。2016年より同大学 医師・研究者キャリア支援センター長。栃木県医師会女性医師部会理事、日本研究皮膚科学会評議員、日本皮膚科学会代議員。

講演 3

医師・研究者のキャリアを支える 病児保育

園田 正樹

コネクテッド・インダストリーズ株式会社 代表
東京大学医学部 産婦人科学



突然だが、生きていく中で仕事(ワーク)と生活(ライフ)はいずれも重要だ。自治医大 医師・研究者キャリア支援センターが開設された10年前との変化はいくつもあるが、一つはSNSの台頭である。医師や研究者は、社会と接点を持つことが少なく、情報やコミュニティがクローズになりがちだと言われることがあるが、SNSによって誰もが情報発信でき、全世界の誰とでも容易につながることでできる環境へと変化した。結果として、VUCAと表現される不確実で、変化の早く大きな社会となり、価値観はますます多様となっている。これまであたりまえだったワーク重視の毎日に若い世代の医師・研究者が疑問を持つ割合が増え、他業種を含めた働き方の変化は見える化されることでますます課題感が強まってもおかしくない。

そのほか、2024年に迫る医師の働き方改革も10年前には考えもしなかった大きな変化である。制度が整うことはとても重要だが、オンライン診療や遠隔医療相談が開始された現代でも、医師は診療が基本で、外来や手術の時間は決まっていて、病院に行く必要がある。研究者もラボだからできる業務や時間の制限がある方も多いと想像する。

そんな中、子どもを持つ医師・研究者が困る点の一つが「突然の子どもの病気」である。保育園は預かってくれず、自宅で保育をせざるを得ないケースだ。そんな課題を解決する方法に「病児保育」がある。感染症などの病気の子どもを一時保育する仕組みだ。本セミナーでは、病児保育の実際についてお話しし、どうやってワークとライフを両立し、より良い毎日を送ることができるのか議論したい。

新潟県糸魚川市出身。佐賀大学医学部卒業。自治医大で初期研修(2008年~2010年)。医師15年目の産婦人科医(東京大学医学部 産婦人科学教室)。安心して産み育てられる社会を実現したいと考え、2017年にConnected Industries株式会社を創業。2020年4月、病児保育支援システム「あずかるこちゃん」をリリース。2021年2月横須賀市に導入され、東京大学大学院との共同研究を実施中。2021年4月に大分県と連携協定を締結。2021年10月に大分県内すべての病児・病後児保育室に導入。事業以外にも、病児保育の調査研究や政策提言に取り組み。成育医療等協議会委員に選出され、こども家庭庁の根拠法となる成育基本法の基本方針を議論する。

主な役職
・Connected Industries株式会社 代表取締役
・産婦人科医(東京大学医学部 産婦人科学教室)
・成育医療等協議会 委員
・全国病児保育協議会 調査研究委員会 / 病児保育広域利用プロジェクト委員会 委員
・日本小児保健協会 ホームページ・広報委員会 / 教育委員会 委員